ROISアクションプラン　～機構の持つ横串機能を最大限に活かす～

ROISは、機構内連携を強化する戦略企画本部と、データサイエンス共同利用基盤施設を有機的に機能させることによってオープンサイエンスを加速し、各研究所の先進的な研究による基盤学理の発展を基に、課題解決型の科学や超スマート社会への貢献といった社会の要請に応えます

大学共同利用機関法人
情報・システム研究機構
機構長　　藤井　良一

1　生命、地球、人間・社会などの複雑な現象を**情報とシステム**という視点から捉える

新たな研究パラダイムの構築及び新分野の開拓を行うとともに、各研究所は各々の研究領域における我が国の中核機関として、研究者コミュニティと社会の要請に基づいて世界水準の先進的な研究を推進し、優れた研究成果を挙げる。あわせて、研究IRを活用して、データと知識の共有と解析及びこれらの活用を目指した研究の発展に貢献する。

1．新たな研究パラダイムの構築と新分野の開拓
2．世界水準の先進的な研究の推進と優れた研究成果

2　研究者コミュニティの要請に応じた学術研究基盤を大学等へ提供し、大きく貢献

データを積極的に共有・活用するデータ駆動型学術研究のための支援事業の推進及び学術情報基盤の提供により、我が国の学術コミュニティ全体の教育・研究力の強化・高度化を支える。また、産業界等も交えた共同利用・共同研究により、先端技術やサービスを社会へも波及させ、データサイエンス・オープンサイエンスの発展に貢献する。

1．研究者コミュニティの要請に応じた共同利用・共同研究
2．データの共有・活用及び産学連携による成果の社会展開でデータ駆動型科学の発展や社会のイノベーションを推進

3　共同利用基盤施設の設置により、各大学に分野を越えて横串を通した支援を実施

国立研究開発法人が、イノベーションハブとしてトップダウン研究を推進することに対応し、大学共同利用機関法人は、コミュニティハブとしてボトムアップ研究（分野別の学術研究）で大学を支える。特に、情報・システム研究機構では、その構成を活かした共同利用基盤施設により、各大学に分野を越えて横串を通した支援を行う。

1．データ共有支援
2．データ解析支援
3．データサイエンティスト等の人材育成と評価制度構築
4．データサイエンス教育担当教員の育成

大学共同利用機関法人
情報・システム研究機構
Research Organization of Information and Systems

令和2年3月23日